

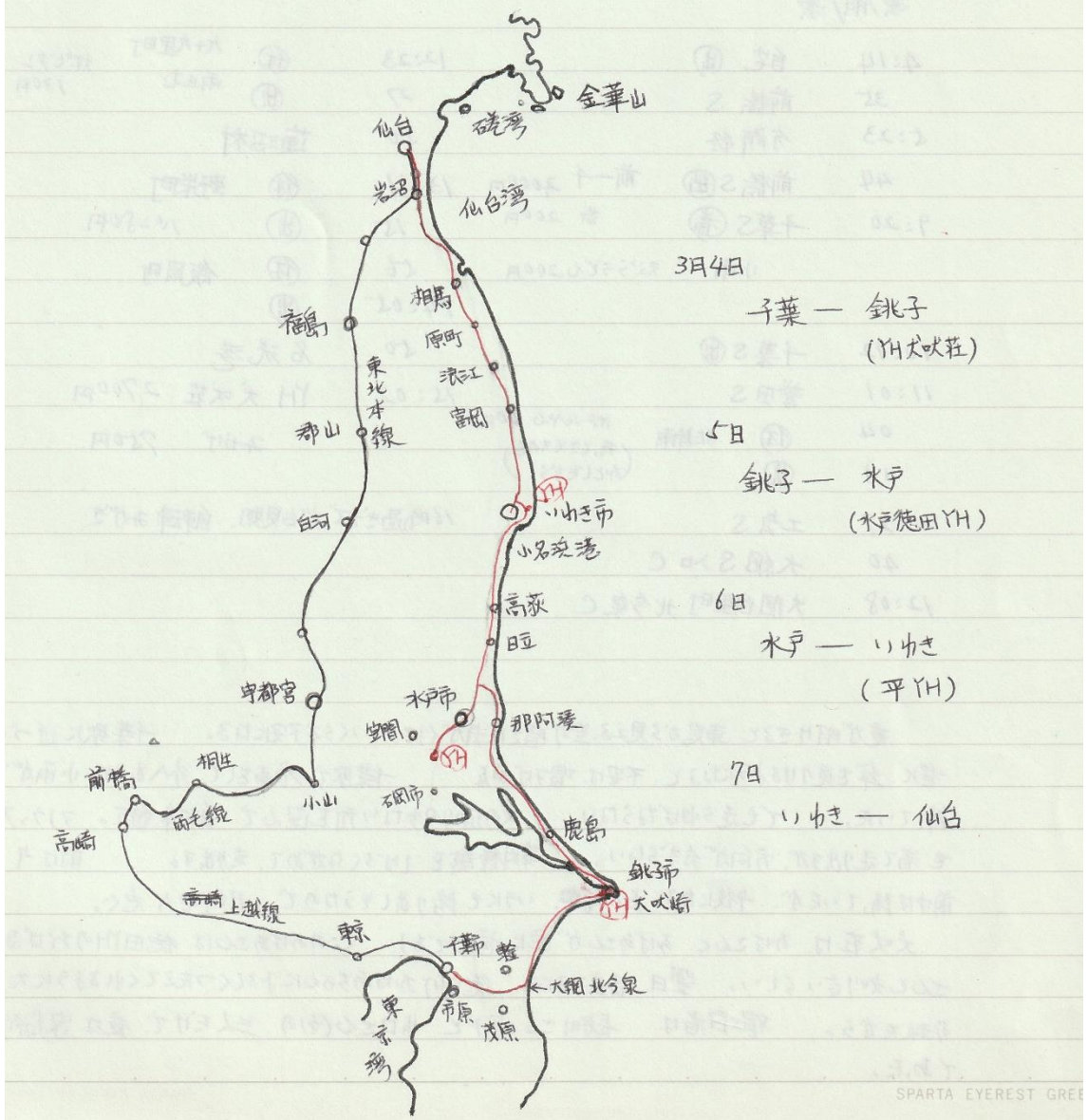
千葉 - 仙台 サイ7

1983 03 04 05 06 07

3泊4日

輪行

費用 22,755-



 ** チャリンコ旅日記 No.3 **
 ** Resistance Of My Mind 19910215 **

【 1983年 3/4 日から 7日 千葉市 から 仙台市 542 Km 】

【3月4日（金）】 曇り／雨 走行距離 85 Km
 （電車） 前橋駅 → 東京駅 → 千葉駅 走行時間 4時間50分
 （自転車） 千葉駅 → 大網白里町 → 蓮沼村 → 犬吠埼

4:14	自宅 出る	12:08	大網白里町
35	前橋駅	23	休み 雨止む
5:23	自転車分解完了	27	出る リボタン ¥130-
44	前橋駅 出る ¥2200-	50	蓮沼町
9:20	千葉駅 着 小雨	13:11	野栄町 休み
	テプラウトン ¥200-	15	出る ハソ ¥80-
	————— 自転車 —————	56	飯岡町 休み
10:12	千葉駅 出る	14:05	出る
11:01	誉田駅	50	名洗港
04	休み 降雨	15:02	犬吠埼
11	出る		YH犬吠荘 ¥2700-
27	土気駅		16時過ぎまで、燈台見物
40	大網駅入り口		自転車の整備

房総半島の旅から1か月も経たない3月4日（金）午前4時35分、暗く寒い前橋駅の待合室で、旅の始まりを1人待っていた。唯一、私の側で相棒の自転車が、輪行袋に包まれて眠りこけている。

始発電車には乗る人も少なく、私はリュックを枕に居眠りをしていたが、熊谷駅を過ぎる頃から通勤ラッシュの時間帯になり乗客が増え始めてくる。時折、車窓から見る空はどんよりと曇り、次第に暗さを増している様だ。混雑を後目に、座席にもたれて居眠りをむさぼっている私は、雨が降る不安で、押し潰されそうだった。赤羽駅で、乗客は半分程に減り、いよいよ上野。上野駅から山

手線に乗るのが大変。大きな荷物、自転車を担いでいる私は、通勤ラッシュの中、みんなに邪魔にされながらもやっと乗り込んだ電車の中で小さくなっていった。東京駅で電車を降りる時、だいふ自転車を周りの人にぶつけてしまった。ゴメンナサイ。でも、自転車は大丈夫だろうか。千葉駅へ向かう電車は、すいていた。地図をながめて、今回の旅の行程を見直している。

9時20分、千葉駅に到着。残念ながら小雨模様。雨の中を走るのは嫌だと思いながら、駅構内でうどんを食べて腹ごしらえをする。外はまだ雨。諦めて、駅の隅っこで自転車を組み立てる。大した降りではないので上だけカッパを着て、千葉駅を走り出したが、すぐに立ち止まる。馬鹿な事に私は、走る方向も分からずに走り出したのです。駅前の道端で辺りを見回して、案内標識を探す。普段なら、太陽を見て方角が分かるけど、今日は生憎の小雨。前回の旅で終点となった大網白里町に着いた時には、雨は上がり、昼時になっていた。そして、九十九里浜に到着。ちょうど、房総半島の付け根を横断した感じだ

。九十九里浜は、地図で見ると綺麗な弓なりの長い海岸線を描いている。しかし、自転車で走る海岸沿いの道は、変化に乏しく、遠く海岸線の端に見える町並にも、なかなかたどり着けるものじゃない。途中、ぼけっとしていて、横から出てきた車にぶつかりそうになる。疲れたのかな。

犬吠埼まで、あと40Km程。通りがかりの店で、リボビタンDとパンを買う。これが、今日の昼食。道端に座り込んで、パンをかじっている。今にも雨の降り出しそうな空模様。私の心も曇りがち。何となく乞食の様な気がしている。勝手気ままな自転車旅行、決してリッチな旅ではない。始めたばかりで慣れない為か、いつもぎりぎりの状態を強いられている様な気がする。金銭的にも肉体的にも。

目的地の犬吠埼にやっとの思いで到着したのは、15時過ぎ。予約しておいた「YH犬吠荘」も、すぐに見つかり安心したのか、夕方まで燈台で遊んでいた。“いぬぼうさき”の“さき”は、“崎”だと思っていたら、違ったんですね。”埼”と、書くんですね。「犬吠埼」、銚子の先端、利根川が海に出るところ。

【3月5日(土)】 晴れ

犬吠埼 → 鹿島町 → 大洗町
→ 那珂湊市 → 水戸市

走行距離 157Km

走行時間 7時間52分

8:12	YH犬吠荘 出る	12:29	旭村役場入り口
41	銚子大橋	48	大洗町
45	休み	13:03	休み
48	出る	07	出る
9:26	東宝山	38	磯崎岬(阿字ヶ浦)
46	神栖町	53	休み ジェス ¥100-
58	平泉(水郷有料道路入り口)	55	出る
10:00	休み ジェス ¥275-	14:07	湊大橋
06	出る	42	水戸駅 混雑 道迷う
11:08	休み	15:14	赤塚駅
12	出る	18	休み
45	休み 昼食 しらはま食堂	23	出る
12:08	出る 鯨焼き定食 ¥500-	16:04	水戸徳田YH 着 ¥2900-

3月5日8時12分、天気は快晴。碧い海に白亜の燈台。犬吠埼を跡にして水戸市へ向かう。遠く海岸線の北の方には、鹿島臨海工業地帯の赤白の煙突群が小さく見える。銚子の漁港に入ると魚の臭いが、ぷんとしてくる。路上には、カモメの落とし物か、小魚がひからびている。利根川に架かる銚子大橋を渡って波崎町を過ぎると、しばらくの間、関東平野の広大さを実感できる。見渡す限り平で、遠くに町並みがぼんやりと見える。その向こうに、筑波の山並が低く見える。飽き飽きするような、なんの変哲もない道が、北へ向かっている。途中、小さな街が幾つかあるだけ。昼時になって、食堂を見つけた時は、嬉しかった。さっそく中に入って休む。普段、肉とか魚はあまり食べないけど、ここで食べた鯨焼き定食は、旨かった。しかも、500円。30分程休んで出発する。

大洗町、阿字ヶ浦を通過して、水戸市に入ったのは15時近く。混雑する街中を抜けて今日の宿泊地へ向かう。海岸から内陸へ入ること40Km程、「水戸徳田YH」に、たどり着いたのは16時。YHの看板がなければ、普通の家と間違える様なYH。収容人員12名。小さな家に大きな囲炉裏、元気の良いおばあちゃんがいる、家庭的なYH。YHに到着するなり遊びに加わり、夜11時頃まで囲炉裏を囲んで楽しんでた。翌朝、朝食後、おばあさんとおじいさんそれに、名古屋のクミ、キ一子に見送られて、元気良く出発。内心、名残惜しい別れだった。

【3月6日(日)】 晴れ

走行距離 140Km

水戸徳田YH → 水戸市 → 日立市 走行時間 6時間29分
→ 北茨城市 → 小名浜港 → いわき市

8:45	徳田YH 出る	12:00	高萩警察署
9:08	休み	29	大津港駅
10	出る	42	勿来駅 休み パン ¥160-
22	借楽園	58	出る
32	水戸駅	13:24	小名浜 道に迷う
10:13	部田野 R245	14:00	小名浜港
33	原子力センター	12	三崎公園
45	日立港 休み	15:14	平YH 着 ¥2500-
50	出る ジュース ¥100-		ジュースパン ¥250-
11:18	日立駅		

3月6日、YHを出発してしばらくは、静かな田園風景。雲雀のさえずりが空から降ってくる。名古屋のクミ（ウェディングベルという歌をヒットさせた、シュガーという3人グループの1人に似ている。）を思い出してか、ウェディングベルを口ずさみながら走る。車がクラクションを鳴らして、追い抜いて行く。そして、「頑張れよ！」と言う声援。昨夜YHで一緒になった男性グループだった。たとえ一晩の間でも声援を送ってくれる事に、YHの温かさを感じた。私は一人、自転車で、福島県いわき市まで走らなければならない。

水戸市内を通り勝田市よりR6号に乗る。これで、いわき市までは1本道。原子力発電所のある久慈を通り、日立市、高萩市を順調に通過。ところが、小名浜でR6号を降りて港に行こうとしたら、途中で道路工事があり、迂回している内に道に迷ってしまった。適当に感で走っていたら、午後2時頃、港を見おろす三崎公園に着いていた。

小名浜は、結構大きな漁港で、船が大部停泊している。市場の上空では、カモメが乱舞している。ここから、いわき市までは、20Km位。地図を見ながら、海岸沿いにひた走る。時間は十分にある。今晚の宿、「平YH」を、海岸の松原の中に見つけたのは、午後3時過ぎ。1日の走りか終わり、ホッとする瞬間だ。

「平YH」は公営YHで、60歳近いおじさんが経営していた。この日は、関西から来た女性2人とバイクの男性、それに私の4人の宿泊者。夜は、おじさんを囲んで4人で、戦争中の中国の話を開いていた。おじさんの話は、夜遅くまで尽きず夜11時頃まで続いた。寝る前に、「明日の朝は、明るくなったらすぐに出発します。」と、言ったら、関西の女性がお団子を、1パックくれた。それを大事に持って部屋へ戻った。

【3月7日(月)】 快晴/晴れ 走行距離 160Km
 いわき市 → 榎葉町 → 双葉町 → 相馬市 走行時間 8時間13分
 → 岩沼市 → 名取市 → 仙台市
 (電車) 仙台駅 → 福島 → 黒磯 → 小山 → 前橋駅

5:37	平YH 出る	11:08	山元町役場
6:00	波立海岸 日の出	30	亘理町役場
14	出る	36	出る
18	久之浜駅	52	阿武隈川
	カ'ガ 竜発見の地	12:10	仙台空港入り口
36	休み	13:00	仙台市
39	出る	25	青葉城跡
7:31	大熊町原子力センター	50	仙台駅 みやげ ¥3200-
46	双葉駅		
8:00	浪江駅 休み ハ'ン ¥180-		——— 電 車 ———
05	出る	15:10	仙台駅 出る
45	原町駅		急行まつしま8号
9:00	休み ジュース、カガミ		¥5800-
06	出る ¥130-	19:07	小山駅 ハ'ン、ユ-ヒ- ¥240-
45	相馬警察署 休み	21:20	前橋駅 着
50	出る	22:20	自宅着
10:26	宮城県境		
28	休み 大森ドライブイン		
47	出る 野菜イタメ ¥500-		

3月7日、バイクの人が着替えをする気配で目が醒める。まだ4時過ぎ、まだ暗い。バイクの人は先に出て行き、しばらくして、私は起き出した。出発の用意をして食堂へ出て行くと、おじさんはすでに起きていて、私にお茶を飲んで行く様に勧めてくれた。おじさんの好意を受けて、お茶を飲み始めたら、梅干しを持ってきて「これが健康にいいんだ。」と言って、お茶の中に入れてくれた。そうこうしている内に、辺りは明るくなって来て朝5時40分、YHを出発した。朝から海岸沿いの道で、走りながら日の出を迎えた。旅の最終日にして初めて、ゆっくりと日の出を迎えることができた。明け行く水平線上を、小さな船がシルエットとなって、行き来している。その間を、黄金色に燃え出した水平線の彼方から、ひとすじの光の帯が伸びてくる。「無事に今日の旅が終わりますように…。」

ここから、旅の終了地点の仙台市まで160Km程。電車に乗る都合で、なんとか夕方4時には、仙台駅にたどり着きたい。R6号を北へ北へと向かって行く。今日は、天気は良いが向かい風が強い。鼻水が凄くて20分に1度は、止まって鼻をかんでいた。宮城県境にある大森ドライブインで食事を取る。走り出して、4時間半。仙台まであと60Km程。

仙台に近づくにつれ、トラックが多くなってきた。少し恐いくらいに。そして、岩沼市を過ぎた辺りから、仙台砂漠を体験させられた。国道を走る車が路上の粉塵を巻き上げて行く。路面の交通標識は、すっかり消えてしまっている。

砂漠を通り抜け、13時50分、仙台駅に到着。予定より2時間早かった。さっそく自転車の分解をして、電車の時刻を調べる。15時10分、急行まつしま8号で仙台駅をあとにする。電車の中で鏡を見たら顔が真っ黒。髪の毛は、逆立っている。鼻をかんだら、やはり真っ黒。スパイクタイヤによる影響で、社会的問題になっている仙台砂漠のおみやげ。仙台から前橋まで、電車に揺られること6時間。こんなに長い時間、電車に乗っていたことはなかった。

21時20分、前橋駅に到着。旅の終わりは悲しいもので、YHで出会った人達にまた逢いたいと思っていた。



千葉一仙台
サイクリング
19830304050607
3泊4日

0305
犬吠崎

0305
阿字ヶ浦
より日立方面
を望む。



0306
小名浜港
(三崎公園より)





0307
四倉港
夜明前



0307
日出
(救豆海岸)